

事業報告

■施設の内容

事業所名	定員	
地域密着型特別養護老人ホーム五本松の家	29名	10名×2ユニット・9名×1ユニット
ショートステイ五本松の家（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）	20名	10名×2ユニット
デイサービス五本松の家（通所介護・介護予防通所介護）	25名	

【職員配置】 ※2020年3月31日現在

1) 事業区分別配置

	地域密着型特養	短期入所	デイサービス	全体
人数	26名	10名	5名	41名

2) 職種別配置人数 全体：48名

施設長	1名	事務員	3名	生活相談員	2名
介護支援専門員	1名	看護職員	5名	介護士	29名
デイ管理者	1名	機能訓練指導員	1名	管理栄養士	1名
調理員	4名				

平均年齢は、43歳、平均勤続年数は、1年8か月、介護職員の平均経験年数は、9年9か月となっていた。

【会議体一覧】 ※実績は別紙参照

会議名	頻度	参加者
経営・運営会議	週1回・月曜日	理事長、事務局長、施設長、管理者、理事
運営推進会議	年6回	地域代表・地域包括支援センター・施設職員
リーダー会議	月2回	主任・ユニットリーダー・管理者等
ケアプランミーティング	必要時	施設長、介護主任、介護支援専門員、生活相談員、管理栄養士、理学療法士等
ユニットミーティング	月1回	ユニットリーダー・ユニットスタッフ
安全衛生委員会	月1回	主任、ユニットリーダー、管理者等
事故防止委員会	月1回	担当委員（清川・各部署代表）

感染防止委員会	月 1 回	担当委員（石井・各部署代表）
身体拘束廃止委員会	月 1 回	担当委員（西原・各部署代表）
栄養・じょくそう防止委員会	月 1 回	担当委員（新山・森川各部署代表）
企画委員会	2 カ月に 1 回	担当委員（古志・各部署代表）
研修委員会	2 カ月に 1 回	担当委員（正明・各部署代表）

■事業区分別 事業報告

【地域密着型特別養護老人ホーム五本松の家】

〈目標〉

- 1) 2018 年度に続き、入居者やご家族の安心・安全の確保、健康管理に重点を置き、職員の知識、技術の向上に努める。昨今重介護者が増えており、看取りケアの知識を深め、家族とともに入居者の看取りを支援する。
- 2) 常時稼働率 90%以上を継続する。入居者の入院について毎月の延べ人数の 1 割にとどめ、退居から新規入居までの日数を 7 日以内とする。2019 年度実績は別紙

入居者の平均年齢は、84.8 歳（男性：82.9 歳・女性：85.7 歳）。平均入居期間は 24 か月、要介護度は、4.3、（男性 4.0、女性 4.3）となっていた。

2019 年度稼働率は、99.84%。新規入居者 6 名、入居前の内訳は、在宅 5 名・医療機関 1 名であった。退居者は、6 名、その内訳は、施設での看取り 3・医療機関死亡 3 名であった。退居から入居までの日数は、最短で 3 日、最長で 15 日、平均 6.6 日であった。

3 つのユニットにて、24 時間シートを活用し、生活支援、介護を実践し、入居者一人一人にあわせたケアを行った。

ユニットごとに行事を企画し、季節感のあるレクリエーションや、希望者に対しては外出支援なども行った。施設全体で行う敬老会や、消防訓練などへの参加も声掛けを行い、参加を促していった。入居者家族の面会や付き添いも多いため、家族と一緒にを行う行事も多くみられた。

入居者の健康管理は、毎月協力病院（脳神経センター大田記念病院）から医師が月に 1 回訪問し健康状態や内服調整などを実施。食事や嚥下、皮膚のトラブルなどに関しては、大田記念病院の認定看護師等に相談指導を受けながら介護看護実践を行った。口腔ケアや治療に関しては、協力歯科の猪原歯科リハビリテーション科より、都度個別の指導を受けながら実践していった。

2019 年度は、看取りケアを 3 名行った。本人の状態確認、医師よりご家族への説明。カンファレンス、ケアの実施など、スタッフ全員で一人一人の看取りケアを実践していった。



【ショートステイ五本松の家】

〈目標〉

- 1) 介護支援専門員との連携を密にとり、稼働率 80%以上を保つ
- 2) 医療依存度の高い利用者の受け入れを積極的に行う

2019 年度稼働率は 85%であった。利用者実人数は 103 人、その内訳は、男性 52 人（平均年齢：76.5 歳、平均介護度：3.33）女性 51 人（平均年齢：85.3 歳、平均介護度 2.77）。毎月、季節行事、おやつレクリエーションなどを取り入れ、生活リハビリの継続を中心に自立支援を行った。

ALS 等の難病や、けいれん発作や歩行制限がある方、ターミナルケアが必要な方、在宅酸素を使用している方など、様々な医療依存度が高い利用者に対しても、受け入れ前に勉強会を行うなど、積極的に受け入れるための取り組みを行った。

クラブ活動として、習字教室や陶芸教室、生け花教室などへも積極的に参加した。



【デイサービス五本松の家】

〈目標〉

- 1) デイサービスが日常を過ごす場所の 1 つになるよう、利用者の生活のリズムや思いに寄り添った関わりを提供する。
- 2) 月平均利用率の 80%を維持する。

利用者実人数は50人、その内訳は、男性20人（平均年齢：83.9歳、平均介護度：3.0）女性30人（平均年齢：84.9歳、平均介護度2.52）。

利用される方にとって、デイサービスで過ごす時間が日常の居場所の一つになるよう、個人の生活リズムや思いに寄り添った関わりを提供している。

機能訓練として1日2回、体操を実施した。

物理療法（低周波、ホットパック）、エルゴメータ、階段昇降練習、ハンドマッサージ、フットマッサージ、手指を使う作業、脳トレプリント、回想、言語訓練などを実施した。

デイサービスでは、全ての行動が生活リハビリに繋がると考え、自宅では車椅子やベッドで過ごしている方でも、歩行器を使ったり、職員が介助をしながら歩いたり、車椅子ではなく椅子に座って過ごす、ベッドではなくソファやリクライニングチェアで過ごしていただけるよう援助を展開した。入浴は、個人浴槽で対応し、入浴剤なども使用している。

利用者のうち認知症を有する方が大半を占め、他のデイサービスでは対応ができないと言われたような認知症状が強い方の紹介が増えている。今後、認知症ケアのさらなるレベル向上に努めていきたいと考えている。

癌末期、経管栄養の方、吸引が必要な方の受け入れも行っている。



■法人本部 事業報告

【理事会】6月、11月、3月（書面決議）

【評議員会】6月、3月（書面決議）

【監査】5月

【運営推進会議】4月、6月、8月、10月、12月実施。2月（新型コロナ対策のため中止）

【入所判定会議】9月、3月

■地域交流スペース・法人事業報告

地域交流スペースでは、毎週月・水・金の午前中、「暮らしの保健室・ふくまち」を開催、毎週金曜日（10時半～11時半）に地域の方々、入居者家族などを対象に、「おしゃべり体操教室」を開始。毎回10人から20人の参加が見られるようになった。

また、2か月に1回、夜の施設を使用した「スナック五本松」を開催。地域の方々への回覧も行い、地域住民はもちろん、入居者家族、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、サービス事業所、社会福祉協議会、行政、医療機関や他の施設など、暮らしの保健室に関心のある方々

が参加し、情報共有や交流を図っている。

そのほか、多くの見学や、小学生の総合学習や中学校のチャレンジウィークなどを受け入れた
(別紙参照)



■職員に関すること

2019年度4月には、名の入職者を迎えスタートした。(内訳：新卒1名、中途2名)

新入職員歓迎会、定期的な職員交流会を開催し、職員同士の交流も図った。

また地域活動への参加も積極的に行い、町内一斉清掃の溝掃除への参加、集会所の清掃、年末の夜警への参加も行った。

10月には地域の施設とともに、「認知症啓発・RUN 伴」に出場するなど、地域活動にも積極的に参画した。

